

## 事例5

### 利用者プロフィール

氏名：Eさん（40歳／男性）  
居住状況：一軒家に数人で共同生活  
身体状況：知的障害、統合失調症  
親族状況：母は入院中。兄弟とは疎遠。



### 本事業利用のきっかけ

高校までを地元で過ごし、東京で就職をしたが心身共に体調を崩し、県内に戻って入院生活を送っていた。以前は、医療機関が金銭管理をしていたが、在宅での生活へ復帰するにあたり、自身で管理するとすぐに預貯金を使い切ってしまうことから、市町村より相談が寄せられた。

### 援助の内容

毎週、本人宅へ訪問して生活費を渡している。家賃は月1回、支払を代行している。本人には生活費を少しでも補おうとする勤労意欲があるため、地区の家族会が行っている作業所へ入会し、定期的に通い始めた。また、近くにあるハローワークや広告の折り込みチラシ等の内容を紹介している。その他、医師による診察と訪問看護を2週間に1度ずつ行っているが、服薬管理が出来ないため医療関係者とも連携をとるようにしている。

福祉サービス利用援助

日常的金銭管理サービス

書類等預かりサービス

## 事例6

### 利用者プロフィール

氏名：Fさん（38歳／男性）  
居住状況：アパートに1人暮らし  
身体状況：精神障害  
親族状況：両親（県内在住）



### 本事業利用のきっかけ

本人は、福祉ホームからグループホームを経て、現在はアパートにて生活を送っている。グループホームでの生活を始めるにあたって、それまで福祉ホームにて行っていた金銭管理の援助を本事業で引き継ぎ、援助を行っていくこととなる。障害年金を受給しているが、浪費傾向にあるため、収入に対する支出のバランスをとるのが難しく、度々生活費が不足してしまう状況にある。

### 援助の内容

1人暮らしを行っていくにあたり、家賃・光熱水費等の必要経費を除くと、どうしても生活費の金額が少なくなってしまうため、生活支援員が毎週1回訪問し、1週間ずつ生活費を受け渡している。それでも、次回の訪問前に生活費がなくなってしまうこともあり、精神的にも不安定になってしまう。収支のバランスを保ちながら安定した生活を確保していけるように、生活支援員の訪問時の相談援助や地域生活支援センター等との連携を図りながら援助を行っている。

福祉サービス利用援助

日常的金銭管理サービス

書類等預かりサービス